

令和元年度 白鳩チルドレンセンター東大阪事業報告

1. 概要

①運営報告

- 保育士不足のため、今年度は園児数を減らし、子どもと保育士のバランスをとって運営してきました。また、一時保育の受入れも保育士不足に伴い一旦休止にしました。そのため収入の減額となり、経営的には苦しい年度となりました。
- 「一日の保育の流れ」も作成から10年以上たち、保育の場面での配慮事項も変化してきたため、法人各園が集合し6か月かけて1か月に1回東大阪において、勉強会を開催し、確認と改善をしました。
- 登降園の時間管理をしながら延長保育料の計算も行う保育支援システム「キッズリー」の導入を行い、保育業務の軽減を図りました。事務处理的には多少の軽減や記録の正確さは導入の価値はみられましたが保護者の打刻忘れの為再度の確認作業のあることが今後の課題として残ります。
- 電子ピアノの購入を行いました。また、保護者より、家庭で使用していたピアノの寄付がありました。
- 老朽の為スチール倉庫の入れ替え、建物内の各所の老朽修繕を行いました。
- 年度途中の退職が正職1名非常勤2名あり、3名の採用を行いました
- 園長、主幹の人事異動がありました

②定員 155名（定数外11名）合計 166名
1号認定児 7名 2号認定児 99名 3号認定児 60名

③事業日数 290日（日曜、祝日及び12月31日より1月4日は休園とします）

④開園時間 平日7:00～19:00 土曜日7:00～18:30

⑤教育保育時間

★2号3号認定児

平日	早朝保育	7:00～8:30	土曜	早朝保育	7:00～8:30
	通常保育	8:30～16:30		通常保育	8:30～16:30
	延長保育：保育短時間児	16:30～19:00			16:30～18:30
	保育標準時間児	18:00～19:00			18:00～18:30

★1号認定児

平日	早朝保育	7:00～9:00
	通常保育	9:00～13:30
	預かり保育	13:30～19:00

⑥職員数

園長 1名、主幹保育教諭 2名、保育教諭 27名（うち非常勤 10名）
子育て支援センター、学童保育担当指導員（兼務） 1名、延長保育補助職員 2名
委託事業者からの派遣調理員 5名 現業員 1名、学校医、1名、学校歯科医、1名
学校薬剤師、1名（年間各2回検診）、事務員 2名 看護師 1名

2. 教育保育運営

①教育保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは、子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②教育保育方針

- 社会福祉法人白鳩会保育メソッド、一日の保育の流れを中心に子どもたちが生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し、人として『生きる力』を育む。
- 在園児および地域の子育ての支援を行う。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。

③教育保育目標

- 乳児期の愛着関係を基盤とし、認知能力（記憶、計算、判断、決定、言語理解など）と非認知能力（意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、思いやり、自己肯定感、自立心など）を育む。

④クラス編成及び職員配置

0歳児	バンビ組	15名	保育教諭	7名	
1歳児	バンビ組	20名	保育教諭	5名	
2歳児	ミニ組	25名	保育教諭	5名	
3歳児	ダンボ組	33名	保育教諭	3名	（うち障がい児加配 1名）※2号認定児 2名 ※1号認定児
4歳児	ドナルド組	33名	保育教諭	3名	（うち障がい児加配 1名）※2号認定児 4名 ※1号認定児
5歳児	ミッキー組	33名	保育教諭	2名	（うち障がい児加配 1名）※2号認定児 1名 ※1号認定児
合計園児数		166名	保育教諭	25名	

主幹保育教諭 2名

障がい児担当加配保育教諭 正職3名、アルバイト1名、パート1名

延長保育担当保育教諭 1名

市基準加配保育教諭	2名
延長保育担当保育教諭補助	2名（パートタイム職員）
その他教育保育補助	2名（パートタイム職員）

⑤教育保育内容

- ゲームやスマートフォンの視聴や、大人の生活時間が夜型になっているため、子どもの発達にとっての規則正しい生活リズムが、狂ってきています。様々な機会をとらえて保護者に伝えてきましたが、担任からの直接的な、助言が一番効果的であると思われました。「よく身体を動かし、よく食べ、よく眠る」という生活リズムについて根気強く伝えました。
- 朝の登園後に実施する「朝の意味ある運動」は毎朝行っていますが、子どもの身体や行動に著しい変化が見られていません。保育士が本当の意味での意味のある活動、何の為に毎朝運動をするのかを再度、認識してもらい、朝の運動の必要性のために一から「朝の意味ある運動の大切さを理解し、とり組むようにしています。
- アクティブラーニングについては、4,5歳児のクラスで取り組んでいますが、物事への探求心や、解決能力の育成は担任保育士の資質に大きく関係することがわかりました。
- 保育のドキュメンテーションを月のおたよりや週日報告で保護者に発信し日中の子どもの姿を保護者に伝え、子どもの成長の見えるかを行い、保護者には好評を頂いています。
- 朝のじゃれつき遊びについては中々子どもの基礎能力や、甘えをほしがる子どもの多さや保育士の資質から、今年度は難しさを感じたところで留まっています。
- 地域の小学校との連携がうまく進まない地域であるものの、一昨年度より学校見学の許可をもらった小学校も出てきています。小学校見学や小学校教諭の事前訪問の際は情報交換を行い、来年度改正される学習指導要領を理解し、保幼小の接続の取り組みを行う計画でしたが、中々小学校から新しい情報をとることができませんでした。学童保育グーフィークラブと年長児との教育、保育活動は順調に進んでいるので、小学校に進学する不安については以前に比べて少なくなっているように思えます。
- 全国人権擁護委員連合会のリーフレット「種をまこう」や年長児は、東大阪市人権啓発課より配布している「ヒューマンライツカレンダー」を活用して人権教育を行っています。目に見えて園内でのこども同士、保護者同士のトラブルはみえていませんが、人権教育についてはセカンドステップの活動も通じて継続が必要であると感じています。
- 食育活動については野菜の育ちを通じて命をいただくことを知ったり、食事のマナーやバイキングを通じて、食べられる量がわかったり、食事の姿勢を通じて身体の不具合を正したりと子どもの成長に必要な要素が含まれている事を感じました。

⑥家庭との連携

- 保護者の育児能力の低下や遅くまで仕事をする親が増え、本来親子の間で築いていく愛着関係が崩れており保育士を親代わりに愛情を求めてくる子どもが増えていますが子育ての仕方が分からない、子どもの気持ちが理解できない、無関心など 0歳児の保護者にそのような傾向が出ています。このような現状を理解して、クラスリーダーを通じて子育ての積極的な助言をしました。

- 今年度大きな虐待案件は目に見えて傷が残る等の事例はありませんが、大きな声で怒鳴る、忘れ物が多い、時間が守れない、しつけが出来ないなどの育児下手からくるネグレクトと思われる家族は増加傾向にあると思われまます。
- 年2回のクラス懇談会は出席率が80%以上あり保護者の関心の高さが感じられますが保育を楽しむ日の保育参加が減っています。
- 長時間の預かりが多くなり子どもの育ちが分からない保護者が多くいるので、子どもの成長の情報を発信するドキュメンテーションや、写真の掲示、クラス懇談会でのビデオ視聴での子どもの一日の成長の様子等を知らせる保育の見えるかを行っています。今後も映像で子どもの姿を発信することを進めます。

⑦人材育成

- 気になる子どもや落ち着きのない子どもが全体的に増えていますが、保育士の年齢的に考えて、共感性の薄い世代が保育に携わっていることもあり子どもの気持ちの汲み取り等が不得手な職員も以前より多くなっています。保育技術以前の保育士の人柄育てが必要であることが課題となっています。
- 中堅職員の退職に伴い、今まで行ってきた、白鳩のメソッドの価値観や、手法が少しずつ変化してきています。社会の変化に応じながら、保育にいとって不変的に大切な在り方を伝えている途中です。
- 職員会議やリーダー会など様々な場面で保育士が意見交換できる場を作り、一人一人が責任ある保育を行い、自分の言葉で保育を語れる保育者の育ち合いを行う場を多く持ちました。
- ヒヤリ・ハットを記入する事で事故防止に努めていますが、単なる報告として形骸化しつつあるため、怪我が減らず、何故怪我が減らないのかを検証するために、怪我の発生時に問題解決用紙をもとに園長、主幹保育教諭、クラスリーダー、保育士、看護師が保育の見直しを行い、話し合い記録することで事故の発生の原因の究明を検証し再発事故を減らすための活動を行いました。怪我の原因や環境を明確に理解擦ることで怪我の回数が減りました。唯、家庭での事故は増える傾向にあります。
- 園内、園外（東大阪市保育士研修会、大阪府社会福祉協議会、日本保育協会、仁愛保育園）の研修会に参加しました。
- 今年度はアートコーディネーターの研修は受けず職員相互で工夫しアートの得意な職員が工夫しながら作品作りを行いました。

⑧地域の実態に対応した事業

地域子育て支援事業

- 子育て支援センター「アリスワールド」は、週2回、30組の親子を受け入れました。地域の子育て支援センター、少子化、プレスクールを利用する子どもが増えた影響から申し込みの人数が減っていますが、現状の保護者のニーズにあった活動を行い子育て支援の役割を担いたいと思います。

- 保健センターとの連携により保育所体験事業「デイジーワールド」も年間20回開催しました。前期6組、後期6組の利用でしたが、近年アリスワールドを利用している親子にも親子関係のつまづきのある親子が増えている傾向が見られてきました。
- 地域商店街の「初午大祭」の親子でのおみこし作りで干支のねずみを保護者と共に作成し、商店街に飾ってもらいました。また瓢箪山音楽祭にも例年通りマーチング演奏で参加しました。地域交流の少ない園ですが、クリスマスには、サンタさん役をしてもらったり、節分行事では鬼の役をお願いしたり、ハロウィンには商店街のお店でお菓子を頂いたりと地域で子ども達の交流は続いています。

⑨苦情処理

- 第三者委員2名の設置を行い、委員の所属、連絡先を「苦情解決のしくみ」とともに玄関ボードに貼り出し保護者に周知しますが本年度苦情はありませんでした。園長を苦情解決の責任者、苦情受付担当者を主幹保育教諭と対応しました。転園や卒園後のご意見やご相談についても保育教諭や看護師、栄養士などが相談の窓口として受け付けました。
- 「ご意見箱」の設置をし、保護者からの意見の集約をしていますが、本年はご意見はありませんでしたが、意見箱に入れるよりメールで送ってくるような時代になっている事を感じています。
- 寄せられた意見についての回答書には、概ね24時間以内で回答書を貼り出します。協議中の事案については経過の報告をします。
- 苦情や要望を匿名でのメールや封書で送られてくることが以前ありましたが、苦情をもらう前に送迎時や個人懇談、保育を楽しむ日などの面談で保護者とのコミュニケーションをしっかりと行い、人間関係を築いていくことが大切であると思います。

⑩リスクマネジメント

- 感染症や救急看護、嘔吐処理、SIDS 対応等医療に関する情報の伝達や研修については日本赤十字研修や自園の看護師が行いました。
- アレルギー事故に関する研修の実施（エピペンの使用法、マニュアル読み合わせ）を魚国総本社の栄養士により、研修を受けました。
- あらゆる災害を想定した毎月1回の災害対策訓練の実施（火災、地震、水害等）をしました。
- 不審者対策についての訓練実施
- 赤十字社指導員による救急研修会を3月に行いました。
- 大阪地域も今までに起こらなかった災害に見舞われたことから備蓄品の確認や準備を今まで以上に真剣に取り組みました。
- ヒヤリ・ハット用紙を毎日一枚職員が記入し、子どもの事故防止を資する活動を行います。また、収集したヒヤリ・ハットを月末には検証を行い、事故が起こりやすい時間帯や場所などの要因を集約し、更なる事故防止に努めました。